地域協働ニュース　2021年3月3日(水)第17号

仁愛大学との高大連携・高大接続に関する協定書締結！

教育のより一層の充実を図る

２月２６日（金）本校は仁愛大学と、高大連携・高大接続に関する協定を締結しました。協定により、来年度以降の探究活動指導や授業力向上のための改革を、これまで以上に充実させていくことができるようになります。

仁愛大学で行われた締結式で、田代俊孝学長は「高大接続改革は国の教育改革にとって重要な施策である」とした上で、「仁愛大学は地域に密着した大学であり、大学のもつ知見や知的財産を地域に還元していくことは使命である。地元の鯖江高校との交流推進を図り、高等教育の充実に寄与できることは大変うれしい」と挨拶されました。

協定書に署名する田代学長と福嶋校長

また、福嶋洋之校長は「社会の持続的な発展を支え、生きる力を育成していくことは、高校・大学両者の喫緊の課題」であるとし、「新たに始めた本校の探究活動に対して、大学の先生方のご指導をいただき、また、教員の授業力向上や ICT の活用等さまざま分野でのご支援をいただけると期待でき大変心強い」「鯖江高校の生徒と仁愛大学の学生、教職員相互の交流によって、教育の質的転換と生徒や学生の着実な成長につなぎたい」と語りました。

締結された高大連携に関する協定書

鯖江高校は、文部科学省所管の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業実践校」の指定を受けたことを契機とし、令和元年６月に自治体・産業界との相互連携協定を締結し、地域との協働を柱に、普通科専門コース・探究科の特性を活かしつつ、持続可能な地域社会を形成する市民の育成に向けたカリキュラムの開発を進めています。今回新たに、仁愛大学との連携協定を結んだことにより、行政・経済界・研究機関の全面的サポートを受けられるようになり、地域に根ざした学校づくりの推進と、将来、地域で活躍する市民の育成を目指すための環境が整ったといえます。この環境をどのように活用していくか、具体的な活動内容は今後決めていきますが、私たち教員の手腕が問われます。

地域協働ニュース　2021年3月19日(金)第18号

2年生 SDGs啓発ポスター発表

令和3年3月16日(火)，2年生の総合的な探究の時間において，SDGsに関する啓発ポスターを発表する授業が行われました。

コメンテーターとして鯖江市より齋藤邦彦氏，服部聡美氏，さばえSDGs推進センターより仲倉由紀氏，川口サマンサ氏，4名の方にお越しいただき指導・助言をいただきました。

誰一人取り残さない

各クラス4人前後のグループに分かれ，それぞれのグループが，世界や国内，また福井県内で発生している問題点について調査し議論を重ね，一枚の啓発ポスターに仕上げました。

スクリーンにポスターを映しだし，発表者は全員前に出て，先ずSDGsの目標の何番の啓発ポスターを作成したかを発表しました。貧困・飢餓・教育の質や男女格差，貧富格差や気候変動，17の目標からそれぞれのグループが様々な問題をテーマに選びました。

選ぶ目標番号も違えば，生徒一人ひとりの観点も様々で，一年間SDGsを学んできた成果発表を兼ねた，とても幅のある奥行きを感じる発表会でした。

SDGsが掲げる“誰一人取り残さない”世界の実現のために，自分たちができること，自分たちが日々意識すべきことを，ポスターをつくりながら，そしてお互いの発表を聞きながら学んでいたようです。

ポスター作りは，文字やイラスト，写真の配置で随分と印象が変わり，キャッチコピーが一目見た人の興味を惹くなど，色々な要素が詰まっていることも学習できたようです。

発表者は，工夫した点やSDGsについて学んだことなどを，聞き手に伝わるよう端的に，大きな声を意識して発表していました。聞き手の方も，しっかりと発表者の目を見て，共感しながら真剣に聞いていました。発表の仕方だけでなく，発表者が発表し易い聞き方も，とても向上していました。

2025年大阪万博：テーマはSDGs

最後に，SDGs推進センター仲倉副所長より講評をいただき，「4年後の，2025年大阪万博のテーマはSDGs，ここにいる皆さんが，ちょうど社会にでたり社会にでる準備をする時期で，自分たちの生活をしていく上でSDGsが大切になってくると思う。是非その時に，高校で学んだことを思い出してほしい，今日の授業も含めて高校で学んだことを大事にしていってほしい。」エールをいただきました。

生徒の感想より

★1年間SDGsについて学んできて、多くの課題がまだまだ残っていることに気付きました。私たち一人ひとりができることを考えて、行動していくことが大切なんだと感じました。

★様々な問題が絡み合っていると思いました。自分にできることから行動していきたいです。

地域協働ニュース　2021年3月19日(金)第19号

ジェンダーに関する特別授業

令和３年３月 18 日(木)，探究科１年生を対象に「ジェンダーに関する特別授業」を実施しました。さばえ SDGs 推進センターより，川口サマンサ氏に講師としてお越しいただきました。サマンサさんはカナダ出身で，日本の文化にあこがれ 10 年前に東京へ，国連の友 Asia-Pacific にてボランティアスタッフとして活躍していたことをきっかけに，昨年 10 月から鯖江市に移住し，SDGs の啓発活動などに取り組んでおられます。

#Me Too フェミニスト運

先ず「ジェンダーギャップ指数」とは，経済・政治・教育・健康の４分野から男女格差を測る指数で，日本はランキング対象国 153 ヶ国のうち 121 位と，とても低い水準であることを説明されました。

世界ではフェミニスト運動が活発に行われ，日本でも行われています。サマンサさんの地元トロントでのフェミニスト運動や以前行われた運動の写真をスクリーンに映し，声をあげることによって世界が変わっている，歴史を動かしていることを学びました。

セクシャルハラスメントを受けたことを告発や共有をする際に，#Me Too(ハッシュタグミートゥー)このハッシュタグを使い，SNS 上での抗議活動も活発になってきているそうです。

日本や各国で，まだまだ根強い男尊女卑があるけれど，女性の地位を上げるというより皆んなの地位を平等にするという考え方が大切で，レディーファーストという言葉も今は男女の不平等を表している言葉であることをお話しされました。

世界では，ジェンダー差別の他，人種差別や宗教差別，身分差別や障がい差別などたくさんの差別問題があり，セクハラや暴力，ネットでの誹謗中傷，そして日本の政治家は男性の占める割合が多く偏った政策になりがちであることなど，差別によって起こっている問題を，生徒一人ひとりが痛感していた様子でした。

LGBTQIA+ 私たちにできること

そして，性の多様性を示す「ＬＧＢＴＱＩＡ＋」という言葉の説明を受けました。**レズビアン(Lesbian)・ゲイ (Gay)・バイセクシュアル (Bisexual)・トランスジェンダー (Transgender)・クエスチョニング (Questioning) とクィア (Queer)・インターセックス(Intersex)・アセクシュアル(Asexual)・＋**これらの他にも様々なセクシュアリティがある，ということでした。

最後に 5～6 人のグループに分かれ，男らしさとは？女らしさとは？意見を出し合うワークショップを行いました。

男らしさとは，声が低い・短髪・筋肉がある・ひげが濃い・字が汚い・肩幅が広い・意見をハキハキ言う・マッチョ・背が高い・力が強い・格好良い・我慢強い。女らしさとは，器用・化粧をする・スタイルが良い・お洒落・おしとやか・清潔・ロングヘア・料理が上手・明るい。などなど，それぞれのグループが発表しました。

声が低い女性もいれば，ロングヘアの男性もいる，列挙した全てが両性に当てはまり，男らしさや女らしさではなく，個性を尊重し，概念にとらわれず生きることが大切だと学びました。

多くの問題を抱えるこの世界で，私たちにできることは何か？サマンサさんより「今すぐできることがあります！それは意識を変えること！」シンプルな答えに生徒は目を見開いてました。この教室にいる一ひとりの意識が変われば鯖江高校が変わり，鯖江市が変わり，福井県が変わり，日本が変わり，そして世界が変わる。私たちは世界を変えることができる！とサマンサさんに背中をおしていただいた特別授業でした。

地域協働ニュース　2021年3月19日(金)第20号

普通科１年生 新聞記事づくりと相互評価

令和３年３月 18 日(木)，普通科１年生の総合的な探究の時間において，これまでに各自で作成してきた新聞記事を仲間と読み合い，互いに評価する授業を行いました。

興味をもたせる記事づくり

オンラインによるインタビュー

普通科の生徒は，新聞記事の作成・発表を目標として，２学期より情報活用の方法などを学ぶ活動を行ってきました。

10 月に福井新聞社の記者をお招きし，新聞記事づくりのための特別講演とワークショップを行いました。読み手を意識したわかりやすい構成や，インタビューのしかたなどを学びました。その後，各自で興味のあるテーマを設定し，新聞記事づくりをスタートしました。

新聞記事づくり

テーマは自分の将来像を意識し，興味のある職業やその分野で活躍する人物から考えました。

テーマが決定した後，冬休み期間も利用して各自でインタビューを行って情報収集をしました。インタビューの依頼は基本的に自分で行い，依頼が難しい場合には鯖江市や商工会議所の方のご協力をいただきました。またコロナウィルス感染対策の影響などで対面による取材が難しい相手には，オンラインによるインタビューも行いました。

３学期に入り，インタビューによって得た情報や調べて分かった情報をもとに，新聞記事づくりに取り組みました。読み手にわかりやすく伝えるための工夫を凝らしながら各自で記事をまとめました。

アピールタイム

情報を正しく伝えるために

新聞の読み合いではクラスの枠を解いて３～４人でグループを作り，まずは「アピールタイム」で作成者から読みどころを伝えました。その後，それぞれの新聞記事を５分程度で読んで，相互評価シートにコメントを書き込みました。全員分の記入が終わったら、その内容をグループ内で共有しました。

新聞記事の読み合い

さまざまなテーマがあり，また同じテーマでも切り口が異なっており，いろいろな発見があった交流会になったようです。相手の表現のいいところを認め合うことで，情報を正しく伝える手段などを学べる活動となりました。２年次ではこれまでの経験を活かして，より深い探究活動を行っていきます。

生徒の感想より

★ どうすれば読み手が読みやすいものになるかと考えながら作成することができた。他の人の新聞で自分の考えでは出せなかった考えもあったりしておもしろかった。

★ インタビューなどの事前の準備からこんなに時間をかけて作るのがはじめてだった。

★ 他の人の記事を見るとレイアウトが全然違っていたのがおもしろいなと思った。

★ 新聞記事づくりはけっこう大変だったが，自分の知らなかったことがたくさん分かったので楽しかった。